

1970 (昭和45年)

会員数56名

19代理事長

是 沢 輝 明



昭和45年19代理事長の是沢輝明氏の代は、来年創立20周年の大事業を前に大変な年であった。副理事長であった菊池章・野本宗平氏が良き女房役となり理事長を補佐した。

昨年出来上った社会開発アンケートに基いてこの年始めて市民献血運動を行い2月6日商工会議所前の献血車にて多数の者が献血運動に協力した。

2月17日JC創立記念日は平和荘にて行い平田昌三・山本巳之吉・山本巖・菊池仙一・平田豊治・神応光徳・門欣之介の7名のOBの出席を得てなごやかな懇談会を催し来年20周年を控え数々の思い出話に花が咲いた。

3月7日社会開発計画書に基き、「市理事長を囲む座談会」市庁ホールで開いた。当日の出席者清水市長を始め会計課長・社会教育課長・教育次長・保健衛生課長・産業課長そして特別参加として市議会議長の山口善太郎氏とJC会員・OB24名であった。議題は八幡浜レクリエーションセンターの建設について・給食センター設立問題から始まり、市会議員数の問題・保内町との合併問題・市の窓口サービスの問題・市民会館建設の構想・江戸岡小学校統合跡地問題・新川駐車場の構想……。会は4時間にも及ぶ長時間熱心な討論が続き予定の4時30分の時間が過ぎ5時近くに閉会した。



市議会を囲む座談会

3月1日第1回新入会員オリエンテーションが今治市民会館で開催された。これは当時愛媛県ブロック協議会の会長であった宮本一成氏が、青年会議所とは如何なるものか、その本質、使命等についての認識と理解を高める為に始めたものであり八幡浜から13名が出席した。

3月14日「身体障害者のために施設を建設しよう」という運動の実践として人形劇「ひとみ座」の公演を行った。会場は松蔭小学校であったが、やがて市民会館が完成すればこのような文化活動の場は市民会館の利用となるのである。土足出入禁止、便所別棟の不便さ、会員は市民会館設立を一日も早く望んだ。

3月12日武田邦太郎氏を講師に迎え農政座談会を行った。

4月28日、市理事者との座談会に続き、市議会議員を囲む座談会を伊藤旅館で行った。道路・観光・市民会館・駐車

場・八幡浜の将来について4時間を余る懇談会は成功を納め、これからも青年会議所との座談会を度々行いたいと市議会側より要望があった。

5月27日文芸春秋の講演会を行った。今回は二度目であるが五味康祐氏の観相学、陳舜臣先生の想像力の翼、女性作家の平岩弓枝氏は「女の生甲斐」というそれぞれのテーマで話された。

6月20日・21日と2日間市内小・中学校美術展を白浜小学校の講堂で催した。市教育委員会の後援で行うこの催しも15年目を迎え、新しい試みとしてこの年東南アジア諸国と沖縄の前島小学校の児童の絵を特別出品して頂いた。市内小・中学校274点・東南アジア諸国小学校より180点、他の作品を得て市民より好評を博した。また審査員には愛媛大学教授小泉政孝先生・松本徳園先生を招き商工会館3階ホールで審査を行った。

7月26日日曜日、川之浜海岸にて「夏期家族会」を行い各家族との親睦をはかる。

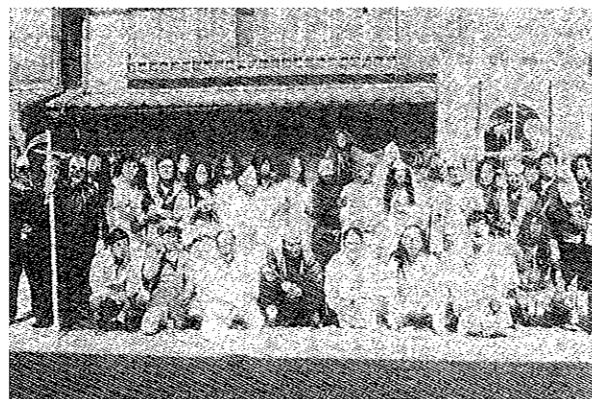
9月3日JCデー統一事業の一つとして教育座談会を伊藤旅館で行った。テーマは「家庭・学校・職場における教育のあり方を正そう」であった。

12月11日定時総会の卒業式では松本武泰・原敬人の二人が卒業、松本武泰氏は創立以来の最古参兵で20年在籍の会員であった。



交通安全キャンペーンでカーブミラーと横断旗を寄付する。

文芸春秋の「文化講演会」



みなと祭り「お化けがいっぱい」

1971 (昭和46年)

会員数59名

20代理事長

菊 池 章

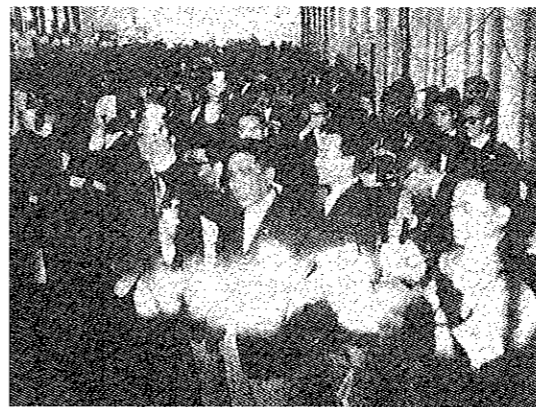


昭和46年、この年は四国ブロックのJCとして昭和27年に発足した我が八幡浜青年会議所が20周年を迎えるという、記念すべき年となった。菊池章・20代理事長のもとメンバー丸となって5月30日の創立20周年記念式典に向け、全力が注がれた。

4月にOB平田久氏氏の県会議員選挙があり、式典前の選挙戦だけに、会員は大変気になったが、二期目で対抗馬もなく無投票に終わった。

四国で最初の20周年を特徴のある式典にするため日本JC・名古屋JC・大阪JC等々、各地の式典の見学もなされ、実行委員長木梨亨氏、副実行委員長宮本一成氏、総務部井上正夫氏、式典部伊藤礼司氏、動員部野本宗平氏、記念事業部平田真一氏、記念誌部宮川昌悦氏という組織が、市民参加の式典を目ざし動き始めた。さまざまな案が練られ、必死の準備が続いた。そして、ついに5月30日午後1時創立20周年記念式典の幕が上がった。

全国各地より集った会員400名に加え、一般市民800名を拙せんにより無料招待したこの式典は、まさに市民ぐるみ、市民と密着しながら、理解を深めるという意図を如実に示したものであった。当時知床旅情の大ヒットで人気を得た加藤登紀子ショーの盛況も去ることながら、卓抜したアイデアによる司会・演出は迫力に富み観衆を魅了した。従来の式典のイメージを打破して来賓を舞台に上げず、紋切型の祝辞をやめ、テーマを与えて来賓や市民との対話をなした点なども、当時としては画期的な事であった。ひき続き5時より、入り日沈む美しい宇和海にフェリーボートを浮かべ懇親会がもたれたが、洋上のパーティーに参加した者は時間を忘れて唯酔いしれるだけであった。この独創的な企画は、多くの会員に八幡浜青年会議所を印象づけ、参加者に後々までよい思い出として語られた。このようにして万人の絶賛を浴びて無事式典は終わった。



懇親会(フェリーボート内)

式典修了後も、会員の熱意はさめず、毎月の行事を続々と消化していった。

6月には前年に続いて献血を行った。7月には、勤労少年

の福祉を高める座談会並びダンスパーティーが催されている。

8月には、20周年記念式典の慰労も兼ねて会員家族待望の「鵜飼及び花火大会」が大洲にて開催された。小雨降る中を貸切バス二台に分乗して大洲に向う。接岸された6艘の屋形舟に乗り、おもむろに川下りを始めた。小雨も大雨となり豪雨となったが、会員家族は「雨もまた興なり」と嬉しがった。やがて鵜飼舟がかかり火を打って漁に入り家族達は盛んな拍手をおくっていた。また、独身メンバーが酔いに乗じて川に飛び込みアユならぬ石をくわえて上るなど子供達のよこびようもひとしおであった。



家族会・大洲「鵜飼及び花火大会」(貸切バス内)

その後も9月には小中学生の美術展、10月のでやてや踊り競演会参加と、行事を進めながら、この記念すべき、創立20周年の年を12月17日の定時総会により、締めくくった。



交通遺児奨学資金募金活動・柴田選手サイン会



仮装行列「化けて踊って20年」